

# 特別展 ちょうかんず 鳥瞰図 ～ 空から見る大正昭和の旅 ～

練馬区立石神井ふるさと文化館（石神井公園） 2018.09.15～11.04



鳥瞰図は、地図の技法および図法の一つで上空から見下ろしたような形式で建物や山などが立体的に描かれたもので、「俯瞰図」「パノラマ図」ともいう。英語は「Birds eye view」で、語義は“飛ぶ鳥の目から見たように見える”とされる。鳥瞰図は、視覚的・直観的に解りやすい広範な表現が可能であるため、様々な応用が試みられ、最近ではコンピューター・グラフィックスや三次元CADによって描かれることもあるが、技法としては「透視投影法」（透視法）を用いている。

「鳥瞰図」は、明治時代以降から観光案内図として多くで描かれるようになり、大正から昭和初期になると、鉄道や自動車の発達による空前の大衆旅行ブームの広がった中で、各地の宣伝と集客の目的のために鳥の目で高い所から見下ろしたように描いた「風景図」や「沿線案内図」が多数作成された。

本展は日本各地の名所を描いた壮大な「鳥瞰図」を紹介すると共に、鉄道各社が競うように発行した「東京近郊の鉄道パノラマ図」などを展示している。

「鳥瞰図」は、実に色彩豊かで対象を変形・歪曲させて表現する「デフォルメに」に富むために、見る者を楽しませて未知の世界へ心を誘ってくれる。



西部鉄道沿線御案内（昭和2年 金子常光） 当館蔵